

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成 31 年 2 月 11 日

事業所名 障害児通所支援事業所 ここ

保護者等数(児童数) 9(11) 回収数 7 割合 78%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6			1		必要のない物は、部屋に置かないように配慮している。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	6			1		ほとんどの職員が、専門的な免許を取得し、毎月研修を行っている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	4	1		2		構造化された環境設備について、今度、さらに、配慮していきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6			1		毎日、清掃・消毒を実施している。また、広いスペースで活動できる配慮をしている
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	6			1		保護者との面談にて、ニーズや課題を伺い、それを踏まえて、計画の作成を行っている
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6			1		支援計画作成に当たっては、一人一人の発達特性や発達過程を理解し、また心身の状態を把握したうえで、家族・地域支援も踏まえ、総合的かつ見通しをもった支援内容を設定している。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6			1		全職員で、振りかえりを行っている。
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	6			1		発達過程を踏まえ、生活の連続性、季節等も考慮して実態に即した活動を工夫している
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4		1	2		毎年、ひかりんコンサートを実施し、保育所と交流しているが、今年度は実施しなかった。
保護者 への 説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	5	1		1		入園時、説明を行っているがより、丁寧な説明をしていきたい。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	5	1		1		年2回、個人面談を実施し、支援計画を示しながら、支援内容の説明を行っている
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	4	1		2		今年度は実施できなかったが、今後、計画していきたい。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	6	1				毎日、家庭と園の連絡帳にて家での様子、園での様子を伝え合い、課題を踏まえた、共通理解に努めている。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	6			1		定期的な面談、必要時に支援会議を行い、助言等の支援を行っている。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	2		2		保護者会では、活発な意見交換ができるよう、保護者主体での進行など考慮している
16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	6				1	個々の相談支援員、併用している保育所の支援員との連携を密にして迅速に対応するようにしている。	

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6			1		保護者への情報伝達、意思の疎通に関しては、今後も丁寧に行っていきたい。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	6	1				園だよりで保護者に必要な情報の発信はしてきた。今後は、自己評価の結果を公表する。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	5			2		園の行事の際は写真等についての取り扱いに配慮している。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	4	1		2		緊急時、防犯の発生を想定した訓練は実施しているが、各マニュアルの周知・説明の徹底が、足りなかった。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6			1		訓練時の様子は、園だよりにて、報告している
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	7					今後も楽しい遊びを通してそれぞれの支援に合った活動を計画したい。
	23	事業所の支援に満足しているか	6			1		今後も専門性や信頼関係を大事にしながら支援を行いたい。

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:平成31年2月11日

事業所名 障害児通所支援事業所 ここ 保護者等数(児童数) 11(12) 回収数 7 割合 64 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7					人数に合わせ、3室を有効に使用し、週2回は、町立体育館で活動している。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	5	1		1	・いつも、たくさん相談にのってもらっている	職場内研修、職場外研修、自己研鑽により、専門性を高めるようにしていきたい。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	4		1		必要な際は、適切に配置していきたい。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	4	2		1		保護者との面談にて、ニーズや課題のモニタリングを行い、それを踏まえて計画の作成を行っている
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	6	1			・子どもが、喜ぶ活動がたくさんありとても、楽しみにしている	生活体験を豊かにし、季節感も考慮し実際に即した活動プログラムを工夫している。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	2		1		長期休業中には、小学校の放課後児童クラブや子ども会等と交流してきた。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	5	1		1		利用開始時に丁寧に説明し確認していきたい。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	5	2			・子どもの様子を、いつも、丁寧に伝えてもらっている。	降園時に話し合う場合や来園できない保護者には、自宅訪問や電話連絡等で行っている。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5	1		1		年2回実施し、頑張ったことや課題等を話し合っ支援に生かしている。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	2	1		・他の父母の話しを聞く機会が有り、参考になる。	保護者が参加しやすいよう行事との付き合いやニーズに合った話し合いを実施する。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5	2				苦情解決後は、記録後、相談のあった保護者に連絡して様子を見守っているが、要望が言いやすい環境を整えて行くことも考慮したい。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6	1				子どもや保護者との意思疎通が図れるよう、全職員で共通理解を図る。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	6	1			・会報で、子ども達の表情がとても良く安心している。	園だよりで保護者に必要な情報の発信はしてきた。今後は、自己評価の結果を公表する。
14 個人情報に十分注意しているか	4	2		1		今後も個人情報には十分な配慮をし、守秘義務を徹底する。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	2	4	1			活動計画や内容は、園便り等で、報告しているが、マニュアルは周知されていないので今後徹底したい。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6			1		訓練時の様子は、園だよりにて、報告している
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	7				・長期休みしか利用できない為、次の休みを楽しみにしている	今後も利用児や保護者との連携を丁寧に図っていく。
	18 事業所の支援に満足しているか	7				・大変、満足している。	専門性と利用児や保護者の立場に立った支援を徹底する。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月11日

事業所名 障害児通所支援事業所 ここ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	1	・利用児の登園を曜日ごとに計画し、適切な調整を行っている。	・年齢別に活動(ゲーム等)ができるよう、利用日を調整している。
	2 職員の配置数は適切である	9	1	・丁寧な支援ができるよう、ゆとりをもって、人員の配置をしている	・過度な支援にならないように考慮する。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10		・障害の特性に応じては、専門機関と連携し、利用児に必要な視覚支援を取り入れ、情報伝達が適切に行えるよう配慮している。	・一人一人の障害の状態に応じたバリアフリー化の対応は、完全ではないが、どの利用児も分かりやすい配慮は心がけている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10		・活動時は、広い空間でのびのびと活動できるような空間を作り、降園後は全職員で清掃を行っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	10			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	1		・これまでは、評価表の中から、改善した内容のみを園便り等で紹介していたが、今後は、全部を公表し業務改善につなげるようにしたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		10	・保護者向け評価表は、無記名や郵送での返送にし、率直な意見が聞けるよう配慮する。	・これまでも事業所及び保護者の評価は実施していたが、公表には至らなかったため、今年度の結果から、WEBサイト等にて全部を公開する予定である。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	8		・本年度は、第三者による外部評価の該当事項がなかった。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		・県内の研修には参加できた。	・研修会への参加後は、受講者が職員会議等の研修会で報告し、専門性や利用児の実態に応じた支援方法について全職員で共通理解を図っている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	4		・利用児の実態に応じたアセスメントツール(MEPA-R)などを講師を招いて研修し、利用児の充実した活動や適切な支援方法などに生かしている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10			・年2回保護者のモニタリングを実施し、一人一人の実態に応じた具体的な支援目標や支援内容を設定し、全職員参加の支援会議で共通理解を図っている。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		・毎月の職員会議にて、利用児の支援方法の変更や改正等を話し合っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	10			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		・1週間の活動計画を作成している	・前日に利用児の実態やメンバー構成に応じた活動計画を立て、準備をしている。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	1		・担当職員が分かるような役割分担を配慮する。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	2		・支援の反省ができなかった分は、翌日にできるように配慮する。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		・記録記載の時間を設定している。	・利用児の担当支援員を決め、その日の様子を丁寧に記録できるよう徹底している。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	3		・町や地区の担当者との連携を図り、支援に生かしている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	1		・毎年、利用児が在籍している保育所の子どもたちとコンサートを通して、交流を図っている。(今年度は、びかりんコンサートが無かったため実施できていない。)
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	10			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10			
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	4		・過去には、保護者対象のペアレントプログラムを実施。今年度は実施できなかったが、保護者の要望で就学に向けた内容等の研修会を行った。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1		・入園時の面談にて、重要事項の説明等を行い、保護者の了解後、利用につなげている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10			・年2回の保護者との面談では、園や家庭での様子を十分に話し合い、それを支援目標や支援内容に生かしている。計画書作成後は、保護者の同意を得てから配布している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10		・年間2回、園の大きな行事の際、保護者会を開催している。(出会しやすい)	・保護者が参加しやすいように、行事の始まる前開催を計画したことで、参加が多くなり、保護者間の連携も取れやすくなった。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	1		・今後も個人情報については守秘義務の徹底が図れるよう、機会あるごとに全職員の見直しを図る。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10			

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10				
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10				
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	3			・入園時の面談用調査票にて健康状態の確認をしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	5			・入園時の面談用調査票にてアレルギーの有無を確認している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10				・ヒヤリハット事案後、全職員への情報共有を図り、安全面の徹底を図っているが、ヒヤリハットにつながるような内容も情報共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	2	・毎年、虐待防止研修会へ参加している		・研修会出席者が全職員への伝達研修会を実施し、全員で共通理解を図っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している					・身体拘束については、現段階で該当事項はないが、常に利用児の人権に配慮した支援方法が実施できるよう全職員で共通理解を図っている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 2月 11日

事業所名 障害児通所支援事業所 ここ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	・利用児の人数や活動内容で部屋を分けている。	・部屋に空きスペースを設定したり園外活動を多く取り入れたりして、利用児が、のびのびと活動できる配慮をしている。
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		1		・対象児はいないが、今後は、バリアフリー化を図りたい。現在は、視覚支援を工夫したり、利用児が集中できるような空間設定を配慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		・PDCAサイクルができるよう、月1回の支援会議で利用児の支援方法を話し合う。	・個別支援計画の作成、評価は、全職員で十分に話し合い作成している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			・保護者へのアンケートを実施し、結果に基づいて、必要な、改善を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0	5		・これまでは、評価表の中から、改善した内容のみを園便り等で紹介していたが、今後は、全部を公表し業務改善につなげようになりたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1		・本年度は、第三者による外部評価の該当事項がなかった。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9		・作成の期間を設定している	・年2回保護者のモニタリングを実施し、一人一人の実態に応じた具体的な支援目標や支援内容を設定し、全職員参加の支援会議で共通理解を図っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		・これまで、利用児の実態に応じたアセスメントツール(Vinland-II)などを使用し、利用児の充実した活動や適切な支援方法などに生かしている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		・立案の時間を定時に設定している	・多くの意見を取り入れて検討できるよう、チームで行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8			・利用児の実態やメンバー構成を考え、全職員で検討する時間を毎日、設けている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9			・長期休暇は、1ヶ月前から活動計画を立て、活動内容や準備する物等を丁寧に記載し、保護者への周知を図っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	7			・得意な事や好きな事、苦手な活動などを考慮し、集団活動と個別活動を組み合わせている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			・全職員で毎日、伝達事項や注意事項などの共通理解を図っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			・終了後、全職員で担当児の記録記入後、支援の振り返りやうまくいかなかった場面、気付いたことなどの共通理解を図っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			・終了後、全職員で担当児の記録を細かく記入し支援の検証・改善につなげている。
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9		・関係機関との連携を密にしている	・利用児の担当相談支援員と情報交換を行い、現状の把握と課題の設定を行っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	6	1			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			・管理者や児童発達支援管理責任者をはじめ、担当支援員など、利用児の状況を把握しているものが参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			・支援学級の担当者とは、定期的に情報共有を行っている。利用児の在籍学級の週報を毎週掲載し、それぞれの学年の行事や下校時間の確認をしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	9			・これまで、医療的ケアの必要な子どもがいなかったが、受け入れる場合は、各機関との連携を図りたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1		・関係機関が集まって支援会議を行い、利用児に必要な情報や共通理解を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			・これまで対象児がいなかったが、今後は、各関係機関との情報共有を図り、支援内容の情報共有を図りたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1		・利用児への適切な支援のため、病院のSTとの連携を図った。各専門機関からの助言や研修内容を利用児に関わる関係機関と情報共有できた。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9			・長期休暇の時、放課後児童クラブや地域の子ども会との交流を行っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1		・管理者と児童発達管理者が参加し、協議内容を全職員への周知徹底している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		・どの職員も保護者への対応ができるよう、利用児の支援の共通理解を全職員へ徹底したい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	3		・過去にはペアレントプログラムを実施。今年度は実施できなかった。保護者の要望で就学に向けた内容等の研修会を行い、未就学児の保護者との連携が図れた。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			・入園時の面談にて、重要事項の説明等を行い、保護者の了解後、利用につなげている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7			・年2回、保護会を開催したり大きな行事(夏祭り・クリスマス会・遠足)の際、保護者同士の連携・交流の支援をしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			・毎月、園での活動の様子【写真】や連絡事項を記載し、発行している。
	35	個人情報に十分注意している	7			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9			・毎年、もちつき会に地域住民を招待したり、ハロウィンに訪問したりして交流を図り、園への理解を深めている

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			・職員、保護者への周知、徹底を図っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		年間の計画を作成している。	・定期的に避難訓練を行い消防署・近隣の住民の協力も得て、各災害に対応した避難を行い、職員の共通認識を図っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			・H30年度も障害者虐待防止・権利擁護研修を修了した職員が、他の職員に研修内容の報告を行った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			・身体拘束については、現段階で該当事項はないが、常に利用児の人権に配慮した支援方法が実施できるよう全職員で共通理解を図っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			・入園時の面談にて、アレルギーの有無を確認しているが、対象児はいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1		・ヒヤリハット事案後、記録と全職員への情報共有を図り、徹底しているが、ヒヤリハットにつながりそうな内容も情報共有している。